

錦糸町わくわく通信

2022.3
第36号

●お問合せ●
東都よみうり新聞社
TEL.03-6663-9010

春の錦糸町で楽しさ見つけよう!

錦糸町駅北口・両国駅西口喫煙所アートの原画を公開

「みんな北斎浮世絵巻」展

【期間】 4月3日(日)まで開催中

【場所】 たばこと塩の博物館(墨田区横川1-16-3)

【開館時間】 午後11時～午後5時(入館締切は午後4時30分)

【入館料】 大人・大学生/100円 小・中・高校生/50円

満65歳以上の方/50円 ※年齢がわかるものをお持ちください。

※障がい者の方は障がい者手帳(ミライID可)などの提示で本人と付き添いの方1名まで無料

【休館日】 毎週月曜日(但し3月21日は開館)、3月22日(火)

【問い合わせ】 たばこと塩の博物館 ☎03-3622-8801



墨田区内の福祉施設に通う68人の皆さんによる「みんな北斎」の作品を展示

丸井錦糸町店

「味の本所小路1stアニバーサリーフェア」



劇場で販売していた幕の内弁当などを提供する「明治座」

【期間】 3月15日(火)～31日(木)

【場所】 丸井錦糸町店1階

1階の名店食品フロア「味の本所小路」の各店で1周年にちなんだ限定商品を提供します。税込3,000円以上お買い上げの方にノベルティやお買い物券などが当たるスクラッチ(3,000円で1枚)をプレゼント。また、12月22日にオープンした「明治座」は、「劇場の味をご家庭で!」の呼び声とともに特製幕の内弁当や特製茶わん蒸し&プリンと「コロケのころっ家」自慢のコロケなどを店舗で販売します。

【問い合わせ】 丸井錦糸町店

☎03-3635-0101

楽 天 地

グルメ3スタンプラリー

楽天地ビル、錦糸町PARCO、アルカイスト、カルムガーデン錦糸町の異なる3店舗の飲食店で税込600円以上利用すると対象店舗で使える500円分のグルメ券をプレゼント!

スタンプ押印期間: 3月1日(火)～3月30日(水)

グルメ券引換期間: 3月19日(土)～3月31日(木)

グルメ券有効期間: 3月19日(土)～4月24日(日)

※グルメ券引換は10,000枚に達し次第、期間中でも終了します
詳細は楽天地ビルホームページ
(<https://www.rakutenchi.co.jp>)へ!



市松模様のお重に春の味覚を敷き詰めた「春の花ちらし」

東武ホテルレバント東京

料理長が贈る春の逸品「～春の花ちらし～ 彩り二段重」

二段のお重に春を連想させる八寸、揚げ物、炊き合わせの品々と二種のちらし寿司を敷き詰めました。卒業・入学のお祝い、お花見のお供にも!

【販売期間】 4月10日まで販売中 【販売方法】 テイクアウト、予約制(お渡しの3日前までに

「簾」店舗または電話で) 【価格】 1台8,000円(税込) 【重箱サイズ】 21cm角×2段 ※3～4人分

【問い合わせ】 東武ホテルレバント東京 レストラン予約課 ☎03-5611-5591



すみだトリフォニーホール演奏会情報

★ファミリーコンサート2022 アキラさん×新日本フィル 0歳から一緒に！

[日時] 4月9日(土) 10時30分開演
／14時30分開演

[出演] 宮川彬良(指揮・ピアノ)
宮川安利(パントマイム)
新日本フィルハーモニー
交響楽団

宮川彬良 (c)PACO

[チケット・申し込み] 2,000円(全席指定)、ひざ上親子席(2,500円)
墨田区在住・在勤・在学割引あり(電話のみ)
新日本フィル・チケットボックス ☎03-5610-3815
(月～金:10時～18時、土:10時～15時、日祝:休)

★新日本フィル《映画音楽》コンサート2022

[日時] 5月7日(土) 午後3時開演

[出演] 竹本泰蔵(指揮)、田添菜穂子(司会)
新日本フィルハーモニー交響楽団

[曲目] 「ニュー・シネマ・パラダイス」、「ゴッドファーザー」
「風と共に去りぬ」ほか

[チケット・申し込み]

5,000円(全席指定)、ペア券
8,000円、高校生以下 1,000円
墨田区在住・在勤・在学割引あり
(電話か窓口で)
トリフォニーホールチケット
センター ☎03-5608-1212



映像提供：株式会社プレントラスト

錦糸町Worker 3rd 街を語る

※このコーナーは錦糸町で仕事をする方に町との関わりについて語ってもらいます。第3回は、錦糸町駅北口地区市街地再開発事業にも関わりの深い大平商店の長田行雄代表取締役役にお話を聞きました。



おさだ ゆきお
長田 行雄 代表取締役
(株式会社大平商店)

—— 錦糸町駅北口アルカイスト1階にある豆と乾物の専門店「大平商店」は、近代的なオフィスビルの中で地元商店の香りを残したどこか懐かしい雰囲気のお店です。現在の北口駅周辺が再開発で様変わりする前からこの地で商売を続けてこられました。長田社長、お店の成り立ちを教えてください。

長田: 大平商店は、先祖の大阪屋平蔵が江戸時代に乾物を扱う商売を大阪で始め、後に江戸に移ったと言われています。錦糸町での商売を始めたのは昭和7年の祖父の代からで、現在の錦糸小学校周辺の大地主で砂糖問屋の松勘さんが所有する土地の一角を借りました。当時は神田川の下流域に倉庫が68棟もあり、錦糸堀の掘割を使って商品を運んだのだと思います。

—— 水運を生かして大きな商売をしていたんですね。

長田: うちの屋号はこのあたりの地名「太平」と勘違いされることが多くて、今年来た年賀状の宛先にも「太平商事」と書かれていましたね。セールスの電話からも「タイヘイ商会」と呼ばれます。一度、地名由来の屋号説について「だれが言ってるんだ」と聞いたら「地元の噂で聞いています」と言われて愕然としました。

—— 現在81歳と伺っております。小さい頃過ごした錦糸町にはどんな記憶がありますか。

長田: 戦時中は昭和19年から20年に岩手県に引越してそこで小学校に入学したのですが、1ヶ月経たずに錦糸町に戻りました。通う予定だった錦糸小は空襲の被害を受け、江東橋3丁目にあった茅場小が仮校舎になりました。錦糸小は校舎改修後も教室が足りなくて、低学年と高学年を午前と午後

に分けて授業を行ってました。給食に進駐車から回ってきたと思われる食料品が出たこともありました。

—— 「大平商店」の社長を継いだのはいつごろですか。

長田: 立教大学を卒業後、名古屋の商社に就職し、三日三月三年働いて東京に戻りました。その後は上尾に出した新たな店を手伝ったりアメ横や築地の問屋を出入りしながら商売を学んでいきました。「いずれ社長になるんだ」と前々から言われていましたが、31歳の時に先代が79歳8ヶ月で急死する事態となり、世代交代が突然にやってきました。父が生前から身につけてくれた繋がりや知識が生きることにになりました。

—— 社長になられた昭和50年代は、錦糸町駅北口の貨物操車場跡地を活用した再開発事業が徐々に具体化し、平成4年には錦糸町駅北口地区市街地再開発組合の理事長に就任されましたね。

長田: 奥山雄雄墨田区長が組合の理事長を辞任されたため、副理事長として関わってきた私が代表になりました。その頃店があったのは北斎通りと四つ目通り交差点の(アルカイスト寄りの)角地でしたが、平成5年から8年までの工事期間中は当時のロッテ会館向かいに仮店舗を出していました。平成9年に完成したアルカイスト1階の店舗に6月から入りました。一緒に釣り餌販売店の「餌勝」も入り、新築のビル内で釣り餌を販売していました。

—— これまで一貫して乾物や豆類を扱ってこられました。商売において昔と比べて変わってきたと感じることはありますか。

長田: 扱うものが全く変わりました。かつては加工原料の仲卸として生の素材が中心でしたが、近年は高野豆腐なども調理した惣菜や、個包装したものを販売しています。正月の豆もおせちを元旦から7日間ほど食べ続けた時代は1家族で7合ちょっと買うのが当たり前だったけど、今は買っても300gぐらい。でも子供心には7日は長すぎて給食が食べられると、学校が始まるのを喜んでいましたね。
(2022年2月4日取材)



Coming Soon

錦糸公園SDGs啓発イベント

[日時] 4月29日(金)～5月31日(火) ※詳細は後日発表